

CMI 株式会社

横浜市鶴見区鶴見中央 2-12-30-105
TEL : 045-717-8575 FAX: 045-717~8683

中国負極材市場動向レポート

(2026 年第 1 ～ 第 3 四半期)

1. 中国における 2026 年第 1～第 3 四半期の負極材生産量動向

2026 年第 3 四半期までの負極材の累計生産量は 273.12 万トンに達し、そのうち、9 月の生産量は 36.95 万トンと、前年同月比で 53%増加した。

図 1 は、2025 年(1 月～12 月)と 2026 年 1 月～9 月における月別生産量の比較したものである。2026 年に負極材の生産量が大幅に増加した主な要因としては、中国国内における「蓄電設備併設の義務化」政策の実施や、独立型蓄電プロジェクトの相次ぐ系統接続、大規模発電所および長時間蓄電システム向けの高サイクル性能を持つ人造黒鉛負極材の需要急増、さらには中国製新エネルギー車（NEV）や電動商用車の海外輸出増加¹などが挙げられる。

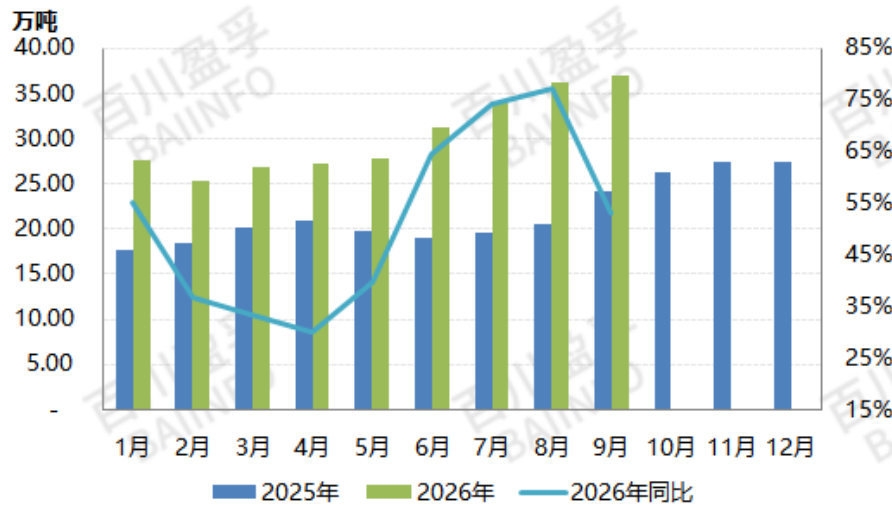


図 1 月別負極材の生産量比較（出典：百川盈孚）

2. リチウムイオン電池向け負極材の分野別消費量分析

深圳高工産業研究（GGII）等の分析・試算によると、2026 年 1 月～9 月におけるリチウムイオン電池向け負極材の消費量は、動力用、蓄電用、民生用・その他の 3 分野に分類され、それぞれの消費量は以下の通りとなった。

¹ 2026 年 1～9 月における中国の新エネルギー車（NEV）の累計輸出台数は 400.6 万台に達し、前年同期比で約 130% 増加（約 2.3 倍）した。このうち、バッテリー式電気自動車（BEV）の累計輸出台数は 244.9 万台（前年同期比約 120% 増）、プラグインハイブリッド車（PHEV）は 155.7 万台（同約 150% 増）となった。

- ・ 動力用電池分野

負極材全体の約 55%～58%を占め、消費量は約 150.2 万～158.4 万トンである。

同分野の需要は主に、バッテリー式電気自動車（BEV）やプラグインハイブリッド車（PHEV）などの乗用車、および大型トラック向けである。2026 年第 1～第 3 四半期における新エネルギー車（NEV）の生産台数は 1,248.3 万台、販売台数は 1,247.2 万台（うち輸出は 400.6 万台）に達した。とくに、急速充電対応の負極材、高エネルギー密度の人造黒鉛、およびシリコン系負極材の消費量が、2026 年に過去最高を記録している。

- ・ 蓄電用電池分野

負極材全体の約 35%～38%を占め、消費量は約 95.6 万～103.8 万トンである。

同分野は、2026 年における負極材の消費拡大を牽引する最も重要な領域となった。中国国内における「蓄電設備併設義務の要件強化（蓄電時間の延長：2 時間から 4 時間へ）」や、海外向けの大容量蓄電システムの納入集中が主な要因である。また、蓄電所向け電池には極めて高いサイクル寿命が求められるため、蓄電用途に特化した人造黒鉛の需要が大きく押し上げられた。

- ・ 民生用電子機器・その他分野

負極材全体の約 5%～7%を占め、消費量は約 13.6 万～19.1 万トンである。

同分野の負極材は、主にスマートフォン、ノートパソコン、ドローン、電動工具といった従来の民生用電子機器に利用されている。2026 年は従来の黒鉛負極の消費量に大きな変化は見られないものの、デバイスのバッテリー駆動時間に対する懸念を緩和（長寿命化）するため、消費の構成は高容量なシリコン・炭素複合材料（Si-C 系）へとシフトしている。

3. 中国負極材メーカーの新規プロジェクト動向

- 福建恒炭源新材料有限公司による負極材生産プロジェクトが着工

福建省永安市の自動車工業園區において、車載リチウムイオン電池用黒鉛負極材の生産プロジェクトが 8 月 25 日に着工した。本プロジェクトは、福建恒炭源新材料有限公司が 2 億元（約 40 億円）を投資して推進するもので、年産 4 万トン規模の負極材生産ラインを構築する。石油コークスや針状コークスを原料に高性能な黒鉛負極材を製造し、製品は動力用電池（EV 用バッテリー）や蓄電用電池などの主要分野へ広く供給される見通しである。

- 四川瑞鞍新材料科技、年産 10 万トンの負極材・15 万トンの黒鉛化一体化プロジェクトを調印

2021 年に設立された四川瑞鞍新材料科技有限公司（登録資本金 3 億元）は、四川貝特瑞新エネルギー材料有限公司と福鞍股份の合併によるリチウムイオン電池用負極材メーカーである。同社は 9 月 9 日、雅安市において、年産 10 万トン規模のリチウムイオン電池用負極材生産ライン、およびそれに付随する年産 15 万トンの黒鉛化処理ラインを統合した「一体化プロジェクト」の調印式を行った。

- 寧波杉杉股份、内モンゴルで 51.6 億元を投じ年産 15 万トンの負極材一体型拠点を建設へ

9月22日、寧波杉杉股份有限公司は、内モンゴル自治区において年産15万トン規模のリチウムイオン電池用負極材一体型生産拠点を建設する計画を発表した。総投資額は51.6億元で、そのうち固定資産投資は約43.18億元を占める。2027年3月に着工、2028年7月に竣工する予定である。プロジェクトの稼働後は、年産15万トンの負極材生産能力と、5万トンの黒鉛処理能力が確保される見通しである。

情報源：ICC 週報、月報、SOHU.com 等